

県内の景気動向

景況感全産業ベースで厳しさを増す

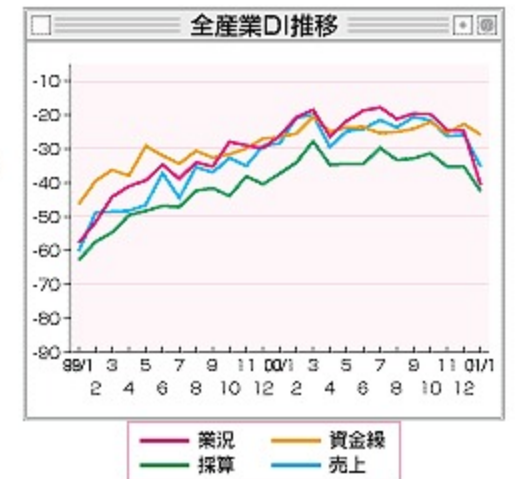
先行きは前月に続き小売業で改善見通し

2001.1月調査

- 本調査の対象企業は県内の中小企業1000社
- 今回調査の有効回答企業数は403社
- 回答企業の業種別内訳
製造業183社・建設業47社・卸売業49社・小売業72社・サービス業52社

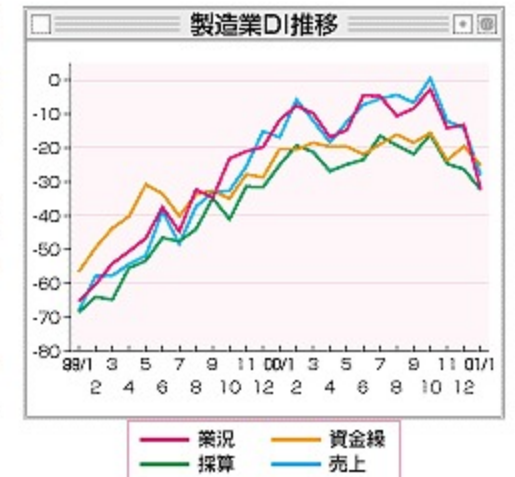
全産業

2月の調査結果（1月末時点）によると、1月の調査結果に比べ、全産業ベースでは主要調査項目の資金繰りでほぼ前月並み、業況・売上・採算でわずかに悪化となった。「製造業」は売上・採算・資金繰りでわずかに悪化、業況で悪化となった。「建設業」は採算でほぼ前月並み、業況・売上・資金繰りでわずかに改善となった。「卸売業」は採算・資金繰りでほぼ前月並み、売上でわずかに悪化、業況で悪化となった。「小売業」は業況・売上・採算・資金繰りの全項目でわずかに悪化となった。「サービス業」は売上・資金繰りでわずかに悪化、業況・採算で悪化となった。



製造業

「食料品」は売上・採算・設備操業率でわずかに悪化、業況で悪化となった。「酒造」は業況・設備操業率でわずかに改善、製品在庫で改善となるも、採算でわずかに悪化となった。「織物」は全項目で悪化、特に設備操業率では一段の悪化となった。「ニット」は全項目で改善となった。「縫製」は受注残高でわずかに改善となるも、採算・資金繰り・設備操業率で悪化となった。「木材・木製品」は受注残高・設備操業率でわずかに改善となるも、業況・売上・採算・資金繰りで若干の悪化となった。「印刷」は売上・採算・受注残高・設備操業率で改善となった。「窯業・土石」は全項目で悪化となった。「鉄鋼・非鉄」は採算でわずかに改善となるも、業況・資金繰りで悪化となった。「金属」は資金繰りでプラスに転じる改善となるも、設備操業率で悪化、業況・採算ではマイナスに転じる悪化となった。「一般機械」は資金繰りでわずかに改善となるも、製品在庫で悪化、採算・受注残高ではマイナスに転じる悪化となった。「電気機器」は業況・売上・採算で前月並みとなるも、製品在庫でわずかに悪化、受注残高ではマイナスに転じる悪化となった。「輸送用機器」は採算・設備操業率でわずかに改善、製品在庫でプラスに転じる改善となるも、売上・資金繰りではマイナスに転じる悪化となった。「精密機器」は全項目で悪化、特に業況・売上ではマイナスに転じる悪化となった。「漆器」は業況・採算・資金繰り・製品在庫で改善となるも、受注残高で悪化となった。「プラスチック」は採算・資金繰りでわずかに改善となるも、業況・設備操業率でマイナスに転じる悪化となった。



- 個流通卸がリードする立場に変わってきて、生産を除くSCMの中間流通となっている。今後欧米の流通業の日本進出により、どう流通構造が変わるのが注目しなければならない。【食料品】
- カインズの進出により既存の商店は悪化の一途であり、廃業もあり得る。【食料品】
- 当社は昨年6月から売上高も採算も好転している。【食料品】
- 販売価格の下落がますます激しくなる。【食料品】
- 良くなる要素がなく見通しは立たない。静観しながら、我慢の年と割り切ることが、我慢比べの道。【縫製】
- 良くなると思っても、1～2カ月内で受注減少・増加の変化があり、非常に流動的で安定する事はない。しかし、次第に良い方向に進むものと思われる。【木材・木製品】
- 現在の長期不況、高失業率は、法的強制による週40時間労働制移行に端を発しており、その分雇用が増えるなどという「机上の空論」が原因である。現実には採算が採れなくなり、リストラをしなければならない現象が生じた。お役所的発想は迷惑であり、最賃法などは典型的な悪弊である。【木材・木製品】
- 競争激化により受注単価が低下し、利益率が減少しているため「関東地区からの受注」を強化している。【印刷】
- 前年1月と比べて、受注、販売など半以下になっており、地元業界、窯元業者も皆同じで困っている。【窯業・土石】
- 外国からの輸入品はすべて限界、国内の生産者に失業者が増えるばかりである。【鉄鋼・非鉄】
- ここまでは考えたくなかったが、これ以上借入金を増やせば住む家も無くす心配がある。このあたりで決断をしようと考えている。今更、従業員の給料を下げる訳にもいかないの、一時解雇する事を考えている。【鉄鋼・非鉄】
- 大量生産品は海外生産へシフトしている。新規物件も国内の材料が海外より高く、見積の段階で受注できない。【金属】
- 昨年12月に環境問題をとらえ、公害に関係するクロムを使用しない亜鉛メッキの後処理をし、防錆もクリアして、技術の国際特許の形で申請した。【金属】
- IT関連の一部は堅調であるが、全般的には一服感の様相にあり、年央の次世代製品の仕様が固まるまで横ばい傾向か。【一般機械】
- 決算を控えてか、生産調整をしているのか、または需要がないためか、得意先の計画変更が激しく先が全く読めない。【電気機器】
- 全般に地域および当工業団地の業況は悪い。当社も親会社の受注が減少して過剰人員を抱えている。【電気機器】
- 12月から受注減になってきた。1月～3月とますます厳しい状況にある。工場の合理化で乗り切りたい。【精密機器】